

一内水研通信一

第 22 号

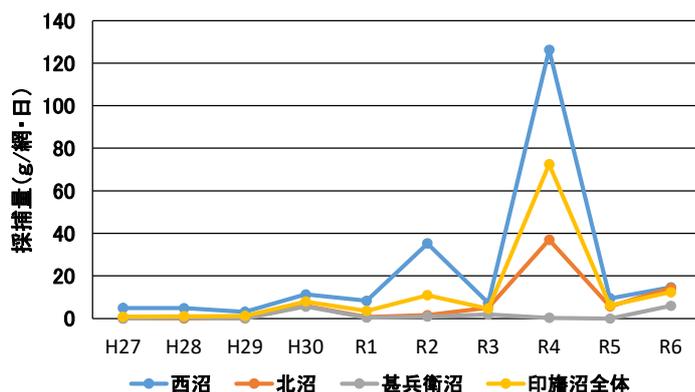
令和 7 年 7 月

千葉県水産総合研究センター
内水面水産研究所
〒285-0866 佐倉市白井台 1390
TEL 043-461-2288
千葉県農林水産技術会議

印旛沼でコウライギギが増加傾向

コウライギギは平成 28 年に特定外来生物に指定されたナマズの仲間です。当所の調査では手賀沼、印旛沼、与田浦で確認されており、背ビレと胸ビレにある鋭い棘が怪我や漁具の破損に繋がるため、漁業者などに問題視されています。

下記のグラフは、印旛沼の調査で得られたコウライギギの採捕量の年毎の変化を示しています。平成 27 年に初めて確認されてから毎年採捕されており、特に令和 4 年には平成 27 年の採捕量と比較して大幅に増加しています。翌年に値は減少したものの、依然として平成 27 年の値を下回っていません。また、毎年 9 月～10 月には当歳魚と考えられる全長 10cm 以下の個体が多数採捕されることから、印旛沼で再生産しているものと推測されます。これらの状況から今後の動向には注意が必要だと考えています。



印旛沼における張網 1 日 1 統あたりの採捕量



コウライギギ

(当所の展示室でご覧になれます)

印旛沼の伝統漁法

グレという漁法をご存知でしょうか？県内ではスタテといった方が馴染みがあるかもしれませんが、簀子を張り巡らせて誘導路を作り、魚を採捕部に導く漁法です。写真は、所内を整理していた際に見つけた、昭和 55 年の新川（印旛沼の流入河川）を撮影したものです。2つの採捕部を備えたグレを 2 基連結した構造が見て取れます。

当所の調査では、印旛沼でオオクチバスが初めて確認されたのは昭和 53 年、ブルーギルは昭和 59 年であり、昭和 55 年は特定外来魚が出現し始めた頃と重なります。グレは現在の印旛沼では見られませんが、伝統漁法が行われていた証を伝えていければと思います。



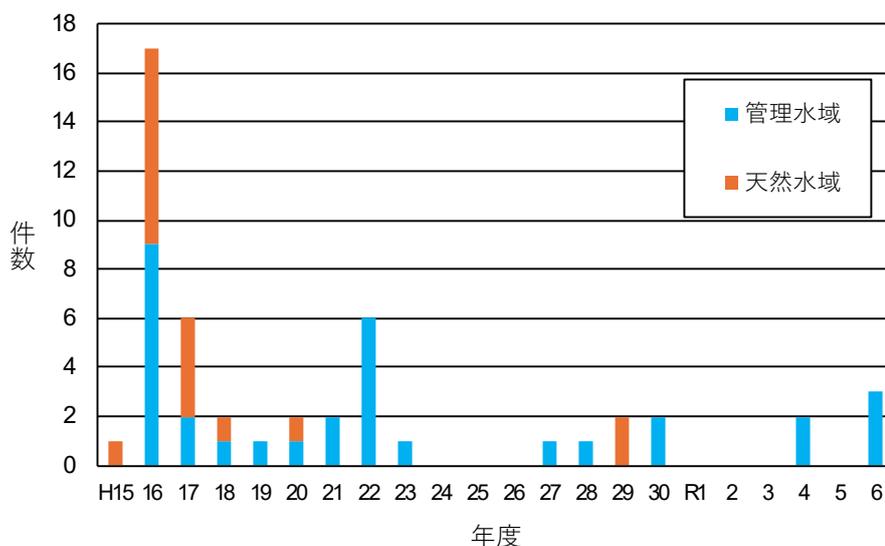
グレ（昭和 55 年撮影）

コイヘルペスウイルス病防疫対策研修会を開催

コイヘルペスウイルス病は、平成 16 年度に最も多く発生した後は減少傾向にあり、天然水域（河川・湖沼）では平成 29 年度以降、発生が見られなくなりました。一方、管理水域（養殖場・個人池等）では、令和 6 年度に 8 年ぶりに錦鯉養殖場での発生が確認されるなど、未だに危険性を排除できていない状況にあります。このことを踏まえ、漁業資源課は令和 7 年 6 月 16 日に県内の錦鯉養殖業者を対象に研修会を開催し、当所からは同病の防除・予防について説明しました（説明資料は以下に掲載）。

https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-suisan/suisan/soshiki/naisuimen/****.html

当日は 8 件の業者が参加し、他県の発生状況について質問されたり、防疫に対する真摯な意見が出され、対策への相互理解が深まったように思われました。



千葉県内のコイヘルペスウイルス病の年推移

輸出錦鯉衛生証明書を内水面水産研究所でも発行

錦鯉の発祥の地は日本ですが、現在では日本のみならず、海外にも愛好者が広がっています。本県からもアジアや欧米を中心に輸出されており、農林水産省は令和 4 年に錦鯉を「輸出重点品目」に追加し、輸出を推進しています。

輸出にはコイヘルペスウイルス病などに感染していないことを示す衛生証明書が必要となり、県水産総合研究センター本所にて発行していましたが、利便性を高めるため、今年度からは当所でも発行できるようになりました。



海外にも愛好者が広がる錦鯉